

参加者からいただいたご意見・ご要望をご紹介します。

多くの皆様にご参加いただくとともに、貴重なご意見等をたくさんいただきました。いただいたご意見等は、今後の議会・議員活動に活かしてまいります。

◆学校と地域のかかわりについて

- ①部活動をする子どもが減ってきている。子どもへの部活参加の声掛けでいいので、教員にも協力してほしい。
- ②交通安全指導員の減によって、全員が辞めてしまうという状況がでてしまった。単純な生徒数による定員割ではなく、地域にあった定員に見直すべき。
- ③地域創造学校で学校と地域の交流が多いが、その場限りの交流に終わってしまいその後の絆といったことが続かない。
- ④子どもの部活動が忙しすぎて、地域との交流ができない。
- ⑤自宅が学校に近いので何か学校に関わることができないかと思っているが、学校が地域の方にどの様な協力を望んでおられるか知りたい。
- ⑥学校運営協議会・コミュニティスクールの内容充実や学校と地域の真の連携で子どもの教育向上が図れると考え設立された。その内容や連携とは何か？
- ⑦学校の中に地域の協力を求める事はあるが、地域に学校がどの様に関わろうとしているのか何を求めているのかよく分からない。
- ⑧ボランティアをしている人が増えない（読み聞かせ）。働いている事で難しくなる。良い働き方改革がないものか。
- ⑨地域で交通安全などのボランティアをしても、挨拶など無い場合、寂しくトーンダウンする。ボランティア活動のモチベーションを上げる仕掛けや工夫が必要。
- ⑩学校規模の適正化も重要。過大校7校、過小校10校、この格差は教育上多くの問題を誘発させている。規模の適正化が必要である。
- ⑪小学校校区と自治会が一致してない地域もあり是正が必要。
- ⑫地域住民が学校運営に口出しできる様になった所が、今までと違って来た所。
- ⑬学校支援体制について、色々新しい組織が作られるが何が不足して何を解決するための取組か分かりづらい。・・・P D C Aがオープンな議論となっておらず、教育委員会や学校の隠蔽体質の印象を感じてしまう。
- ⑭学校運営が行き詰まって来ているのではないか。通学時の安全やイジメの問題など。学習以外の集団生活の問題解決に困っている。だから、「地域の皆さん応援してください。」という風にとれる。本来は、文科省・中教審などの方針ではなく、学校・地域・教育委員会などで対策検討し方針を出すべきではないか。

- ⑮先生方は遅くまで学校に残っておられる現状はブラック企業並み。何か地域が協力できることはないだろうか（多忙化解消に向け何が出来るか）。
- ⑯昔も長時間残業だったが、宿直などもあり楽しくやっていた。（旧きよき時代だった）
- ⑰今は、知育に時間を割く事を強要し、地域に出る事を極力控える様な指導がなされている様にみえる。・・・長時間残業が話題となり益々傾向が強まっている。
- ⑱隣の先生同士で話をしている事が減った。パソコンとにらめっこしている時間が長くなっているのでは。
- ⑲保護者と先生の信頼関係。保護者が先生を敬う、先生は保護者に感謝する、そういう関係があれば、子どもを通して学校・地域・保護者が上手く繋がるのではないか。そうした関係作りが一番大切。
- ⑳学校・保護者・地域のコミュニケーションの障害となっている1つが、個人情報保護の問題。この対策を見出さないと自分達で自分達の首を絞める事になりかねない。
- ㉑インクルーブシブ教育の実践状況について、出来るだけ市小中学校の実態に基づく報告が必要。子どもの時は多様な人間や環境の中で接する事が大切だが、発達遅れの子どもの発達系だと言って簡単に組み分けをする風潮がある様にみえる。